

## 名月や

校長 安達 修久



朝晩には涼しい風が吹き、秋らしさを感じられるようになってきました。日が短くなって夕暮れが早まり、このごろはあつという間に暗くなっています。日々を過ごしてあまり気付かないうち、季節は少しずつ移り変わっていきます。



9月10日(土)は中秋の名月でした。これに合わせて、郷土資料館ボランティアの方々が、廊下に月見の展示をしてくださいました。ススキを飾り、月にウサギの絵と、収穫を祝い自然を愛でる昔ながらの行事を思い起こさせるものでした。そして十五夜の日には晴れ渡り、見事な満月が見られました。次の週には、集会委員会が「月見集会」を行い、中秋の名月や月見に関するあ

れこれをクイズ形式で紹介していました。廊下に展示してあった「芋名月」という別名も、クイズの中でとり上げられていました。各教室では、子どもたちがそれぞれ楽しそうに集会に参加していました。



郷土資料館ボランティアでは、毎月の活動の際にこのように季節の伝統行事に関わる展示をして、子どもたちの目にふれるようにしてくださっています。

釜利谷小学校では、地域・保護者の皆さんによるボランティア活動が盛んに行われています。今回話題にした郷土資料館ボランティア、6月学校だよりで紹介した花ボランティアをはじめ、登下校時の見守りを行ってくださる「ほほえみ学援隊」、図書館ボランティアや「小さな音楽会」、放課後学習支援の「かまてら」、PTAが主体の読み聞かせボランティアなどバラエティに富んでいます。「小さな音楽会」と読み聞かせは、コロナ禍で一時中断を余儀なくされていましたが、今年度からは感染予防に努めながら、活動形態を工夫して再開することができました。コロナに負けることなく学校に協力してくださる地域・保護者の皆さんの熱意に、感謝の気持ちでいっぱいです。

1日1日を積み重ね、釜利谷小学校は今年で創立149年目。来年は150周年です。地域に愛され、卒業生や保護者、教職員など多くの人々がこの学校を支え、活動をつくり上げてきたからこそ、今日があります。その長い歴史に敬意をはらいながら、少しずつ節目の年を祝う準備をしていきたいと思えます。

4月にスタートした令和4年度が、10月の折り返し地点にきました。各学年、クラス、各自で前期の振り返りを行い、後期のめあてや活動への意欲につなげられるようにしていきます。